

1 1

お 名 前	性 別	満年齢	終戦時の年齢	現 住 所
安形 ただし 正	男 性	8 6 歳	2 0 歳	富岡東部

① 8月15日は、どこでどんなことをしていましたか。

中国の徐州じよしゅうから南へ50里ほどの淮安わいあんという町で、中国八路軍討伐はちろぐんとうばつで支那しなを守る任務についていた。部隊名は、中支派遣軍独立歩兵60大隊だった。

② 終戦のことを、どこで、どのように聞かれましたか。

営庭（広場）に集合し、中隊長から話を聞いた。すぐにその足で、完全武装ぶそうで徐州まで引きあげた。

③ 敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子

原子爆弾ぼくだんが落とされたことは聞いていたが、負けたことは信じられなかった。これで日本へ帰れるとは思わなかった。終戦後も中国軍からたびたび攻撃こうげきを受けた。徐州へもどる途中とちゅうも、もどってからも続いた。



▲ 青年学校時代の安形正さん

④ 体験の中で、子どもたちに語り伝えておきたいこと

「引き揚げの人を最後まで守った」

○ 初年兵が上官に殺された

昭和19年11月25日、私は名古屋城内に駐留ちゅうりゅうしていた名古屋第二部隊に入った。入隊2日後には、銀色に光るB29が偵察ていさつのため上空にやって来た。本土空襲くうしゅうがそろそろ心配される時期だった。

12月7日、いつどこへ行くのかまったく知らされないまま、夜中に出発した。真新しい冬の軍服を支給されたので、寒い方へ行くことだけは分かった。長崎ながさきから釜山ぶさんに入り、汽車で満州を経由して徐州に着いた。そこからは10日ほど歩いて、淮安わいあんという町に着いた。

私たちは初年兵だったので、そこで待っていたのは、3ヶ月に及ぶ厳しい訓練だった。大砲たいほうで射撃しやげきする部隊だったので、大砲の分解をよくやらされた。砲や車輪に分解して運び、また組み立てるという訓練だった。食べるものは断食のように少なく、訓練が激しいため、みんなやせ細った。みんな膝小僧ひざこぞうがとび出ているように見えた。

ある時、大砲そうさの操作でまごまごしている初年兵がいた。1回の説明では、難しい操作はなかなか覚えられるものではない。すると、初年兵教育係の古参兵が、「ばっきゃろ〜!!」とさけんで、鉄の棒ぼうで背中せなかを思い切りたたいた。その初年兵は、「うっ! う〜ん」とうなって、そのまま動けなくなった。脊髓せきずい

をやられたのだろう。その初年兵は、そのまま危篤^{きとく}となり、息を引き取った。
（何てことをするんだ！こんな死に方^{はら}ってあるか！）と、みんな腹の中がに
えたぎったが、上官には逆^{さか}らえず、ぐっところえるしかなかった。

○ 満州からの引き揚げ者^あを必死^{きいじよ}に守った

終戦となり、武装解武^{かいじよ}のはずだったが、引き揚げ者を守るために私たちの大隊
だけは火砲を保管していた。満州からの「引き揚げ者の命を守れ」という軍の命
令があったようだ。引き揚げ者は、命^{いのち}からがら徐州まで逃^にげてきた。ソ連兵から逃
れ、中国兵にも捕^{つか}まらないように婦人や子どもが必死に歩いてやってきた。途中
で、殺された人もかなりいたようだ。家族が離^{はな}ればなれになったと泣いている人
もいた。中国軍の銃^{じゆう}から守るためには、火砲で威嚇^{いかく}するしかなかった。私たち砲兵
隊は、引き揚げ者を守るのに必死になった。

引き揚げ者は、満州に在留^{ざいりゅう}していた開拓団^{かいたくだん}の人たちがほとんどだった。中国軍
は、日本が負けたことを知って、報復攻撃をしかけてきたので、火砲をとられそ
うになったこともあった。その守りで死んだ兵士もいた。引き揚げの人たちには、
軍の食糧庫^{しよくりようこ}を開けて食べさせた。列車が到着^{とうちやく}すると、乗せれるだけ乗せた。列車
の屋根はもちろん、車両の連結部分まで乗せて、落ちないようにたすきでしぼり
付けた。次の列車はいつ来るか分からないから、何が何でも乗るしかない、だれ
もがそんな思いだった。（無事日本へ着^{いの}けよ）と、祈^{いの}った。列車は上海^{シャンハイ}まで行っ
たんだと思う。

満州や北支からの引き揚げ者がいなくなったところで、火砲や武器弾薬^{だんやく}をおさ
めて、中隊も引き揚げることになった。

私は、昭和21年の4月7日に復員した。豊橋に着いた時には本当に驚^{おどろ}いた。
ほとんど焼け野原で何もない状態で、とても豊橋とは思えなかった。家に着くと、
親兄弟みんなが喜んでくれたが、そのまま家には入れなかった。シラミだらけだ
ったので、着るものを煮沸^{しやふつ}し
てもらった。風呂^{ふろ}にゆったり
つかった時、やっと家に帰っ
たことを実感した。

戦争がないことが当たり前
ではない時代に生きたこと、
これは分かってもらおうとし
てもむずかしいと思う。しか
し、そんな過去の歴史をしっ
かり学んで、平和を守ってい
ってほしいと思う。



「昭和史 第八卷（研秀出版）より」

▲ 釜山駅で引き揚げ船を待つ人たち 昭和20年11月